

## 2014 年度点検・評価シート

## I 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学部
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-1	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 【 A 】
点検・評価項目(1)	4-1-1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示
	教育目標と学位授与方針との整合性
	修得すべき学習成果の明示
点検・評価項目(2)	4-1-2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
点検・評価項目(3)	4-1-3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(4)	4-1-4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

## II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-1-1	<p>スポーツ・健康科学部は、本学の建学精神とその教育理念に基づき、国民の健康の維持と増進を視野に、スポーツを通して文化の発展と健康づくりに貢献できる人材の育成、医学・健康関連分野で健康の増進に寄与できる人材の育成を目的としている。これに基づいた学位授与方針として、以下のような能力を備えていると認められる学生に卒業を認定し、学士（スポーツ科学または健康科学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツ・健康科学分野の基礎知識、基礎理論、専門知識を総合的、学際的に理解することができる。</li> <li>2. 幅広い教養と国際的な感覚を身につけ、グローバルな視点からスポーツ・健康科学を分析し、実践していくことができる。</li> <li>3. 人間性を重視すること、すなわち強い責任感、高い行動力、モラル、情熱、人間愛、思いやりの心などを持っている。</li> <li>4. 自己のキャリアを切り開いていく強い意欲を持ち、また倫理観を身につけた上で、社会の発展に能力を役立てるという使命感を持っている。</li> <li>5. スポーツの振興、健康の増進などの社会的使命を基にして、社会貢献、地域貢献等を通じて、スポーツ・健康科学を社会に広めていくことができる。</li> <li>6. 地域社会や国際社会に適応し、そのニーズに応えられる能力を持っている。</li> </ol> <p>スポーツ科学科の教育研究上の目的は、学則に定められているとおり「スポーツ科学に関する学識を修め、人間性豊かなスポーツ指導と健康づくりの能力を有する人材の養成」を目的としている。これに基づいて「学位授与方針」（ディプロマ・ポリシー）が明文化されている。その方針は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな人間性と社会性の基となる幅広い教養を有し、スポーツ科学に関する専門的知識や技能を総合的・学際的に理解し実践することができる。</li> <li>2. 熱い情熱、高い行動力、強い責任感を持ってスポーツ科学の英知を実践にまで高め、地域社会及び国際社会のニーズに応えることができる。</li> <li>3. スポーツ活動を通じて修得する問題解決能力、コミュニケーション能力、関係調整能力、等の諸能力を活かしてスポーツ・健康文化の向上及び振興に貢献できる。である。</li> </ol> <p>健康学科の教育研究上の目的は学則に定めているとおり、「生命の尊厳に基づいた生活の質を理解し、医療と保健の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献できる人材の養成」を目的としている。これに基づいて『ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)』が以下の通り明文化されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療検査科学の専門家として、また社会人として高いモラルと教養を有し、弱者や病人に対して思いやりと人間愛を有する。</li> <li>2. 食品科学の専門家として、国民の食生活及び食品の安全管理に貢献できる能力を有する。</li> <li>3. 環境科学の専門家として、国民の快適な職場環境の維持に貢献できる能力を有する。</li> <li>4. 上記の3つの専門的能力を通じて、医療と保健の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献するために、さらなる向上心</li> </ol>
-------	--

	を有する。である。
4-1-2	<p>スポーツ・健康科学部は、さまざまな教育プログラムを駆使して社会に適応できる人材、地域社会・国際社会で活躍できる人材、またスポーツ・健康の分野で役立てる知識・技能・応用力を修得した人材を育成するため、全学共通・基礎教育・専門教育科目の中に必修科目や選択科目を配置して、系統的な履修を進めることが可能となるよう、以下の方針でカリキュラムを編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全学共通科目は、できるだけ広い分野に関連した内容を興味をもって学習できるように配慮し、履修により深い教養と豊かな人間性を育成する。</li> <li>2. 基礎教育科目は、基本的かつ専門的な知識の理解を深めさせるとともに、一人の人間として自立し、多面的で総合的な視点から主体的な判断を下すことができる力を育成する。また、運動と人体についての基礎知識を学ぶために、「スポーツ科学概論」「健康科学概論」を導入科目として、スポーツ科学と健康科学の最新知識を学習する。</li> <li>3. 履修内容は両学科で多少異なるが、専門職としてスポーツ及び医療の社会で活躍できる知識、技能などを有する人材を育成するために、専門教育科目を配置している。</li> </ol> <p>スポーツ科学科は、教育目標と学位授与方針を踏まえた教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明文化し、HP、大学案内（CROSSING）等に掲載している。その方針は「1.全学共通科目を通じて、幅広く深い教養と豊かな人間性を育成する。2.基礎教育科目を通じて、専門的知識及び現代社会に適応できる人間力の修得に必要な基礎能力を育成すると共に、自らのキャリアデザイン力を醸成する。3.専門教育科目を通じて、スポーツ科学に関連した専門的知識を教授することにより、「できる」「わかる」「教える」といった理解力と実践力を育成する。4.様々な教育プログラムを通して、自ら主体的に行動でき、地域社会はもとより国際社会にも貢献できる能力を養う。」である。科目区分、必修・選択の別、単位数等については、学則及び学部で作成した履修手引きである「羅針盤」等で明示している。</p> <p>健康科学科は、教育目標と学位授与方針を踏まえた教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明文化し、HP、大学案内(CROSSING)等に掲載している。その方針は、本学の教育理念に基づいて、医療・食品・環境の分野のスペシャリストを育成するために、以下のような方針に従って充実した教育課程を編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎教育科目は、生命の尊厳について理解を深め、英語を含めたコミュニケーション能力を高めながら、倫理性国際性を養成する。</li> <li>2. 専門教育科目は、健康科学のエキスパートとしての科学的な思考力と判断力を養成するために、「血液学」「病理学」「生理学」などの科目を配置し、講義・演習・実習・卒業研究・卒論作成を通じて指導を行う。</li> <li>3. 全学共通科目は、学生自身の健康維持・体力増進を図りつつ、社会人として身に付けるべき必要な幅広い教養を養成する。</li> <li>4. 資格科目は、臨床検査技師資格取得、食品衛生管理者・食品衛生館監視員、第二種作業環境測定士などの4つの資格に関する専門科目を配置して、専門家が持つべき問題解決能力および研究能力を育成する。</li> </ol> <p>科目区分、必修・選択の別、単位数等については、学則及び学部で作成した履修手引きである「羅針盤」等で明示している。</p>
4-1-3	<p>教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、HP、大学案内（CROSSING）等に掲載し社会に公表している。大学構成員（教職員および学生等）への周知については、毎年度初めのガイダンスや新入生を対象とするスタートアッププログラムにて実施しているが、周知度の具体的な検証方法については検討中である。</p>
4-1-4	<p>教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性については、毎年度、学科の自己点検部局委員会において定期的に検証を行っている。</p>

**【効果が上がっている事項】**

4-1-1	2012年度に学位授与方針を明文化し、様々な機会・媒体を利用して周知を図っている。
4-1-2	教育課程の編成・実施方針も2012年度に明文化し、様々な機会・媒体を利用して周知を図っている。
4-1-3	
4-1-4	

**【改善すべき事項】**

4-1-1	
4-1-2	
4-1-3	大学構成員に対する教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の周知方法と有効性について検証が必要である。
4-1-4	

大学学則、大学案内 (CROSSING)、大学HP

《指標データ》

データ集 (表6) 開設授業科目における専兼比率

(表7) 卒業判定

(表8) 大学院における学位授与状況

(表9) 就職・大学院進学状況

(表10) 公開講座の開設状況

(表11) 学生の国別国際交流

(表12) 海外への派遣学生数

(表13) 国別留学生数 (学部別) の経年変化

(表14) 教員・研究者の国際学術研究交流

(表15) 国際交流協定締結機関数・締結国数

(表16) カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度

(表17) 各年次の履修登録単位数制限の状況

(表18) 卒業要件単位に占める比率

(表19) 履修者数規模別の授業コマ数

(表20) 学生の授業評価の実施率 (大学、学部別)

(表21) 学生の授業評価において「当該授業が主体的な参加を促す授業であったかどうかに関する質問 (Q13)」に対する肯定的な回答比率

(表22) 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問 (Q20) への肯定的な回答比率

(表23) 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問(Q8)への肯定的な回答比率

III 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」 「A：概ね達成」 「B：やや不十分」 「C：不十分」 で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	4-1-3 大学構成員に対する教育目標、 学位授与方針および教育課程の編 成・実施方針の周知度を継続的に 検証するシステムを構築する。	検証システムの構築と検証結果の公表	→					
14年度 目標	4-1-3 大学構成員に対する教育目標、 学位授与方針および教育課程の編 成・実施方針の周知法とその有効 性を検証するシステムについて、 学科での検討を開始する。	左記に関する検討が学科にて開始されて いる。	→	A				